第24回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
～ひとりひとりが活躍できる、教育研究環境の構築～

EPMEWSE

【日時】2026年 10月 10日(土) 10:00～16:30
【場所】数理科学研究科棟 NISSAY Lecture Hall およびオンライン開催
東京都目黒区駒場3丁目8-1 東京大学駒場キャンパス
【主催】一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（役員選出学協会：日本数学会）
【共催】東京大学、東京大学大学院数理科学研究科
【後援】内閣府男女共同参画局、文部科学省、経済産業省、日本学術会議、
日本学術振興会、科学技術振興機構、国立大学協会、日本私立大学連盟
【参加費】個人会員・一般：無料、学協会・大学等：7000 円（不課税）
（ポスター展示は別途 税込 3000 円）
【参加申込】連絡会加盟団体・個人会員はリエゾンで配信するグーグルフォームより
参加〆切：2026年 9月 18日(金)：連絡会加盟団体・個人会員
・連絡会に非加盟の団体
2026年 10月 2日(金)：一般（オンラインのみ、ポスターなし）
※非加盟団体・一般参加者の方は、下記よりお申し込みください

非加盟団体　一般参加者

【問い合わせ先】連絡会24期事務局（danjo_office24@djrenrakukai.org）

【趣旨および目的】

人文科学・社会科学・自然科学を含む全ての研究分野において、日本の女性研究者比率は諸外国と比べて極端に低く、とりわけSTEM（科学・技術・工学・数学）分野における低迷は深刻な課題となっています。一般社団法人男女共同参画学協会連絡会は、この現状を改善すべく2002年に発足しました。現在、STEM分野における約100の学協会が加盟し、男女共同参画の実現に向けて活動を続けています。

これまで、女性研究者が少ない要因の一つは「女子学生に理工系分野の魅力が十分に伝わっていないこと」にあると考えられてきました。当連絡会でもその問題意識から、「女子中高生夏の学校」などの企画に長年貢献してまいりました。しかし、様々なデータを分析するにつれて、理工系に興味を持つ女性は長期にわたって一定数存在しているにもかかわらず、活躍が阻害されている背景には、無意識のバイアスやハラスメントを含む「教育研究環境の問題」が大きく横たわっていることがうかがえます。

　こうした背景を踏まえ、今年度のシンポジウムでは二名の専門家を基調講演にお迎えします。東京都の教育長として都立高校入試の男女別定員の廃止を実現された浜佳葉子氏と、京都大学の学生総合支援機構で長年ハラスメント等の問題に向き合ってこられた杉原保史氏です。それぞれの視点からお話を伺うとともに、多様な立場のパネリストを交えた議論を行います。
　性別などの要因によって疎外感を感じて歩みを止めることなく、ひとりひとりが生き生きと能力を発揮できる教育研究環境をどのように構築していくか。これは、今後の日本の理工系分野における男女共同参画を推し進める上で、本質的で不可欠なテーマです。本シンポジウムを通じて皆様と共に真剣に考える機会と致します。

■プログラム
【午前の部：10:00〜12:00】
開会挨拶：石毛和弘 氏（一般社団法人日本数学会 理事長）
歓迎の挨拶：林香里 氏（東京大学理事・副学長（国際、D&I））
連絡会活動報告・WG活動報告

基調講演
「誰もが活躍できる社会のために 〜職場としての「行政」と「学校」から〜」
　　浜佳葉子 氏（元東京都教育委員会 教育長、現東京都住宅供給公社 理事長）

【昼の部：12:00〜13:30】
ポスターセッション・昼食

【午後の部：13:30〜16:30】
基調講演
「大学教育における悪意なき不正義を考える」
　　杉原保史 氏（京都大学 学生総合支援機構 学生相談部門 部門長）

パネルディスカッション
　　浜佳葉子 氏、杉原保史 氏、
　　今井桂子 氏（中央大学）、篠田万穂 氏（お茶の水女子大学）、
　　下村真弥 氏（奈良女子大学）、中野 Thomas 亮平 氏（北海道大学）

総務委員会からの挨拶：坂内健一 氏（連絡会第24期運営委員会 委員長）
次期役員選出学協会からの挨拶：日本地球惑星科学連合